

日本気象学会

昭和62年度秋季大会

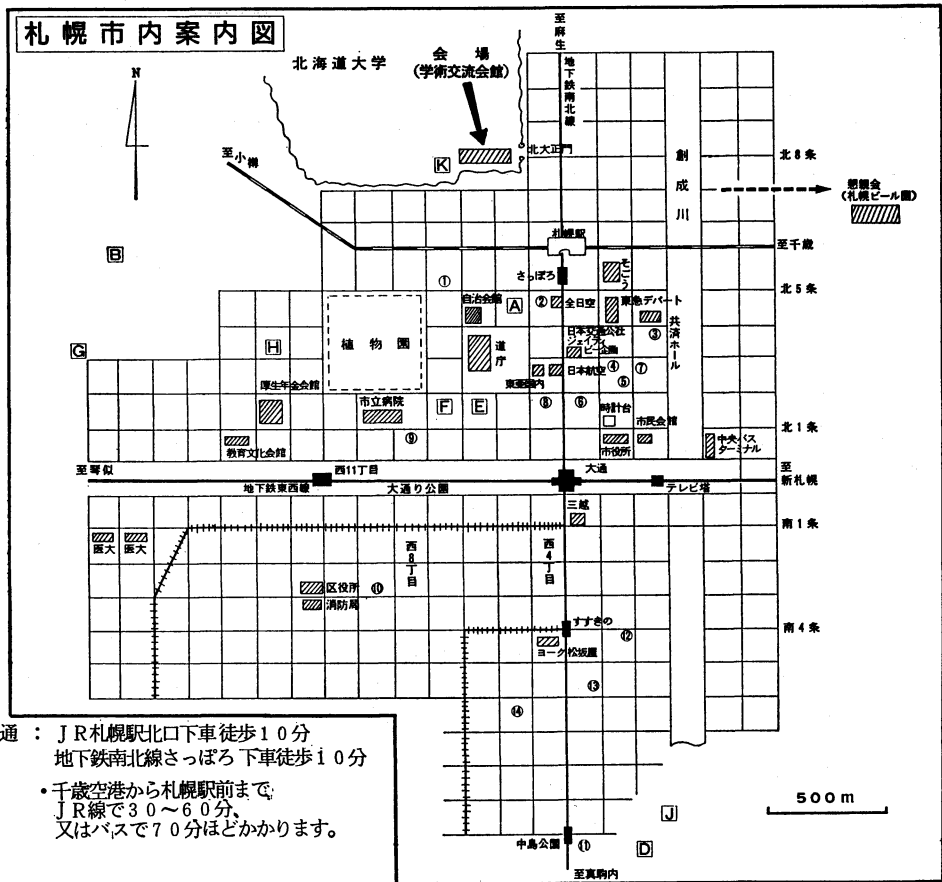
会期：昭和62年10月14日（水）～16日（金）

会場：北海道大学学术交流会館 〒060 札幌市北区北8条西5丁目

目次

会場案内	557
大会行事予定表	558
臨時総会次第	558
研究発表内容一覧表	559
シンポジウム内容	559
研究発表題目	560～566

会場案内図



大会行事予定

1. 会場：北海道大学学术交流会館（電話 011-758-5426）
 第1会場：2階講堂
 第2会場：1階小講堂
 第3会場：1階第1会議室
 ポスター・セッション：1階ホール
2. 会期：10月14日（水）、15日（木）、16日（金）

行事			
大会（研究発表）	（第1，2，3会場）	10月14日（水）	9：00～12：30 13：30～16：00
大会（ポスター・セッション概要紹介）	（第1，2，3会場）		16：00～16：15
大会（ポスター・セッション）	（1階ホール）		16：15～17：00
大会（研究発表）	（第1，2，3会場）	10月15日（木）	9：00～11：30
シンポジウム	（第1会場）		12：30～16：00
臨時総会	（第1会場）		16：00～17：00
山本賞受賞記念講演	（第1会場）		17：00～17：20
懇親会	（サッポロビール園）		18：00～
大会（研究発表）	（第1，2，3会場）	10月16日（金）	9：00～12：30 13：30～17：00

臨時総会次第

1. 開会の辞
2. 議長選出
3. 理事長挨拶
4. 山本賞授与
5. 日本気象学会奨励金贈呈
6. 「堀内基金奨励賞」の設立について
7. 閉会の辞

昭和62年度秋季大会

(): 講演番号, — : 座長

	第 1 会 場	第 2 会 場	第 3 会 場	
10月14日 (水)	9:00~ 12:30	大気大循環 (101~115) —時岡達志—	エクマン境界層 (201~214) —水野建樹—	雲物理・積雲対流 (301~316) —菊地勝弘—
	13:30~ 16:00	気候・応用気象・歴史・気象 教育 (116~126) —松本 淳—	大気汚染 (215~226) —光本茂記—	雲物理 (317~323) —遠藤辰雄—
	16:00~ 17:00	ポスター・セッション (各会場で概要紹介後, 1階ホールで講演) (P101~P107, P201~P206, P301~P307)		
10月15日 (木)	9:00~ 11:30	総観・中小規模現象 (127~135) —八木正允—	接地境界層 (227~236) —花房龍男—	放射・大気電気 (324~331) —廣野幹彦—
	12:30~ 16:00	シンポジウム		
	16:00~ 17:20	臨時総会, 山本賞授与, 日本気象学会奨励金贈呈 山本賞記念講演		
10月16日 (金)	9:00~ 12:30	中小規模現象 (136~149) —平沢正信—	局地循環 (237~248) —水間満郎—	大気化学 (332~343) —太田幸雄—
	13:30~ 17:00	熱帯気象・台風 (150~165) —丸山健人—	気象力学・中層大気・惑星大 気 (249~263) —山中大学—	エアロゾル (344~359) —荒生公雄—

(注) 大会参加費 会員 1,000円, 学生会員 500円, 一般 1,500円

シンポジウム「“どか雪”—日本海における中規模じょう乱」

1. 日 時 大会第2日 (10月15日) 12:30~16:00
2. 会 場 第1会場 (2階講堂)
3. 座 長 遠藤辰雄 (北大・低温研), 播磨屋敏生 (北大・理), 巽 保夫 (札幌管区)
4. 話題提供者 (質疑応答を含め1題30分)

菊地 勝弘 (北大・理) : 石狩平野の降雪の特徴
 若濱 五郎 (北大・低温研) : 降雪雲の動的構造
 木部俊一郎 (札幌管区) : 北海道西岸における小低気圧
 猪川 元興・永田 雅 (気研・予報) : 日本海上の収束雲の数値実験
 浅井 冨雄 (東大・海洋研) : 日本海豪雪の中規模の様相
 最後に総合討論を行う

講演発表者へのお知らせ

1. 第1, 第2, 第3会場ともオーバーヘッド・プロジェクター使用可能です。
2. 講演時間は質疑を含めて12分程度です。スライド標準枚数は6~8枚です。
3. スライドのマウントに番号をつけ, 上下を揃えて下さい。
4. ポスター・セッションの方法については「天気」5月号 (p. 353) を参照して下さい。
またポスターに表題と発表者名を明記して下さい。

研究発表題目

大会第1日(10月14日)9時00分~12時30分

(*印は発表者)

第1会場 大気大循環

座長 時岡達志

101. *小寺邦彦・千葉 長・山崎孝治(気研・気候): 1982年4月の西風強化について
102. *木本昌秀(気象庁・数値予報), Michael Ghil (UCLA): 北半球冬期の循環パターンの解析——流れのレジームの多重性——
103. 金谷年展(東北大・地理): 最近40年間の冬季における異なった天候レジーム間の遷移過程
104. 鬼頭昭雄(気研・気候): 海洋大陸付近の海面温度異常に対する大気の応答の数値実験
105. *鬼頭昭雄・尾瀬智昭・山崎孝治・時岡達志(気研・気候): MRI・GCM-Iによる1984年夏の長期予報実験
106. *尾瀬智昭・時岡達志・山崎孝治(気研・気候): 低緯度子午面循環の収支解析(MRI・GCM-Iの数値実験結果から)
107. *加藤内蔵進(名大・水圏研), 栗原泰子(都立大・地理): 亜熱帯高気圧域の水循環と梅雨前線(序報)
108. 松本 淳(東大・地理): 東アジアにおける秋雨前線帯について
109. 二階堂義信(気研・予報): 全球スペクトルモデルT42の4か月積分に見られるPJパターンの南北振動
110. 二階堂義信(気研・予報): 全球スペクトルモデルT42の4か月積分に見る西部赤道太平洋高海水温偏差の影響について
111. 三角幸夫(気研・予報): 北半球大循環の変動—1. 南方振動(SO)と準2年周期振動(QBO)の影響
112. 山崎孝治(気研・気候): 対流圏・下部成層圏の拡散係数
113. 野田 彰(気研・気候): 対流圏のラグランジ的平均子午面循環
114. 岩嶋樹也・山元龍三郎(京大・理・気候): 低次傾圧時間・空間スペクトルモデルの周期外力応答
115. 塩谷雅人(京大・理): 帯状波数が0の長周期変動について

第2会場 エクマン境界層

座長 水野建樹

201. *佐田幸一・柿島伸次(電力中研): 不安定温度成層中の排ガス拡散に関する風洞実験(2)
202. 加藤真規子(気研・物理): 温度成層中の乱流構造(風洞実験)
203. *横山長之・山本 晋・林 正康・田口彰一(公害資源研), 鈴木基雄(気象協会): 混合層中における拡散の解析とモデリング
204. *平松 親・菊地勝弘(北大・環境): 札幌市の大気環境Ⅲ——ヒートアイランドの日変化——
205. *鷲尾政史・村尾直人・太田幸雄(北大・工): 札幌市の積雪期における日中の熱収支
206. *近藤裕昭・吉門 洋(公害資源研): 中部関東地方における広域の地表地衡風とAMeDASの平均地表風の関係について
207. *吉門 洋・近藤裕昭(公害資源研): 関東の夏の混合層の観測(Ⅱ)
208. 蒲生 稔(公害資源研): 関東平野の混合層(その4)
209. *蒲生 稔・林 正康(公害資源研): 混合層上部に出現する積雲(その2)
210. 安田延壽(気大), 三上正男(気研・応用): 森林丘陵地帯の風速分布と粗度
211. *三上正男(気研・応用), 安田延壽(気大): 森林丘陵地帯上のダルトン数について
212. 沢井哲滋(気研・予報): 釧路の霧の特徴
213. 中国山地の霧研究グループ *宮田賢二・奥谷悦子・長谷川綾・東 雅子・密林紀子(広島女大), 宮崎実夫・渡部浩章・里田弘志・細川利之(広島地台): 中国山地の霧の研究(2)
214. *吉川友章(気研・応用), 城 智子(CRC), 川越邦雄(東理大): 初期火災時の室内気象の数値シミュレーション[Ⅳ]——窓の焼損急開口を算入した場合——

第3会場 雲物理・積雲対流

座長 菊地勝弘

301. 真野裕三(気研・気候): GMSから見た雲のサイズ及び形態について

302. 堀口光章(京大・防災研)：垂直レーダによる上層エコーの観測
303. *坪田幸政(慶応高), 高橋 劭(九大・理)：温かい雲での降水粒子のリサイクル
304. 上田 博(北大・理), Dusan S.Zrnica, (NSSL)：1台のドップラーレーダーでみられたガストフロントの微細構造(Ⅱ)
305. *城岡竜一・上田 博・菊地勝弘(北大・理)：しゅう雪に伴う下降流に関する研究(Ⅲ)——地上における風の変化——
306. *岩波 越・菊地勝弘・上田 博・谷口 恭(北大・理)：北海道オロフレ山系の降雨特性
307. 若原勝二・大窪 浩・三浦郁夫・増淵美彦(札幌管区)：北海道西岸に発生する暴風雪を伴う小低気圧の解析
308. *小林文明・菊地勝弘(北大・理)：レーダーから見た北海道西岸羽幌沖の小低気圧の形成過程(2)——冬のメソサイクロンの特徴——
309. *小林文明・菊地勝弘・上田 博(北大・理)：北海道西岸帯状収束雲のライフタイムとレーダーから見た特徴
310. *加藤聖治・播磨屋敏生(北大・理)：冬季の帯状エコーの合流について
311. 若原勝二(札幌管区)：札幌中心の大雪の解析——1983年2月26日から27日の例——
312. 小西啓之(大阪教育大), 遠藤辰雄・坪木和久・若浜五郎(北大・低温研)：ゾンデとレーダーによる降雪雲内外の観測
313. *永尾一平・石坂 隆・小野 晃(名大・水圏研)：雲物理を取り入れた層雲モデル——気候と雲の相互作用を探る試み——
314. 椎野純一(気研・台風)：多重セル構造のメソ擾乱の数値実験(2)——分裂後のセルの振舞いと風の鉛直シア——
315. 高谷美正(気研・台風)：雲内におけるエディ項のパラメタリゼーションについて
316. *遊馬芳雄・菊地勝弘(北大・理)：降雪時における地表付近の大気電気要素の構造(数値実験)

大会第1日(10月14日)13時30分～16時00分

第1会場 気候・応用気象・歴史・気象教育

座長 松本 淳

116. *福山 薫(三重大), 山本淳之(大阪電通大), 柏谷健二(神戸大)：琵琶湖湖底堆積物の永年変化と古気候変動
117. 山元龍三郎・Sanga, N.K.・岩嶋樹也(京大・理・気候), 星合 誠(愛知学院大・教養)：COADSデータによる気候診断(第1報)
118. 松本 淳(東大・地理)：北海道に梅雨はあるか
119. 柏原辰吉(気象協会・北海道)：河川流量からみた北海道の降水量
120. 中村圭三(道都大・教養)：北海道の春の生物季節の特徴について
121. *吉田作松・菊地原英和(気象協会)：全日射量の日変化の非対称性とそれが月平均斜面日射量推定結果に及ぼす影響
122. *花房龍男・能登美之(札幌管区), 甲斐憲次(気研・衛星観測)：風速の再現期待値について
123. *荒生公雄(長崎大・教育), 合田政次・中根重勝(長崎大・水産)：船舶用レーダーによる豪雨監視の試み

124. 斎藤博英(元気研)：木造防寒壁内部の温度・湿度変化

125. 大井正一：山の気象研究発展の歴史的考察

126. 丸山健人(気研・予報)：気象教育に天気予報を

第2会場 大気汚染

座長 光本 茂 記

215. *私市和俊・中西幹郎(気象協会)：沿道における窒素酸化物の拡散シミュレーション
216. *横山長之・林 正康・北林興二(公害資源研), 鈴木基雄(気象協会)：大気拡散ポテンシャルの地域分布(4)——地上煙源——
217. *野本眞一・私市和俊・安達隆史(気象協会・研)：光化学スモッグの経時変化予測モデルの作成
218. *溝口次夫・西川雅高・光本茂記・笹野泰弘(国立公害研), 三宅千秋(東洋情報)：光化学オゾンの長距離輸送
219. 鶴田治雄(横浜市公害研)：沿岸域から内陸域への大気汚染物質の輸送と変質過程(その5)——光化学反応による汚染物質の変質過程——
220. 近藤裕昭(公害資源研)：内陸への汚染物質輸送についての数値実験からのコメント

221. 水野建樹・横山長之・北林興二・近藤裕昭・田口彰一(公害資源研): 安定弱風時の拡散
222. *山田哲也・星野勲史・伊藤昭三(大阪府大・工): 静止成層流体中の鉛直浮力ジェットのの上昇高
223. 大原真由美(広島県環境センター): 瀬戸内沿岸と中国山地沿における降水状態
224. 藤田慎一(電力中研): 降雨による火山噴出物質の洗浄作用
225. *麻生 正・木川誠一郎(気象衛星センター): 衛星から見た中ノ国境付近で発生した山火事の煙の移動
226. 中村 一(気象庁・数値予報): 中ノ国境付近の山火事の煙の移流拡散モデルによる追跡

第3会場 雲物理

座長 遠藤辰雄

317. *横山悦郎・黒田登志雄(北大・低温研): 結晶成

長におけるパターン形成Ⅱ——多面体結晶から樹枝状結晶への移行過程——

318. *高橋庸哉・遠藤辰雄・若濱五郎(北大・低温研), 福田矩彦(ユタ大): 雪結晶 dimension の時間変化について
319. 石坂 隆(名大・水圏研): 温暖前線近辺における雪結晶の空間分布
320. *佐藤 節・播磨屋敏生(北大・理): 雪片の付着雲粒量の測定
321. *播磨屋敏生・佐藤 節・加藤聖治(北大・理), 石岡 太(北大・環境): 降雪現象における雲粒捕捉成長過程の寄与率 I. 気象条件による寄与率の相違
322. 高橋 勲(九大・理): ハワイに降った雹
323. 山下 晃・小西啓之・島田 亙・*谷 圭祐・平山礼子(大阪教育大): 大阪に降った凍雨の観測

大会第1日(10月14日) 16時00分~16時15分

第1会場 ポスター・セッション概要紹介

- P101. 田平 誠(愛知教育大): 熱圏を通るインフラニック波の伝播
- P102. 劉 発華(筑波大・院): 寒波が吹き出す過程における寒気団の構造について
- P103. 田口彰一(公害資源研): 総観規模低気圧の統計
- P104. *時岡達志・山崎孝治・尾瀬智昭(気研・気候): 背の高い積雲対流を少し抑えたモデルのパフォーマンス
- P105. 瀬口勝基(名大・水圏研): 南極域の午面循環とその変動に関する諸問題
- P106. 中澤哲夫(気研・台風): エルニーニョ発生期の西太平洋における対流活動
- P107. 丸山健人・常岡好枝(気研・予報): 準二年周期振動月(QBO-month)を用いた赤道成層圏下部の気温の長期変動の解析

第2会場 ポスター・セッション概要紹介

- P201. *平松 親・菊地勝弘(北大・環境): 札幌市の大気環境Ⅱ——天気図型別に見た冬季の風系の日変化——
- P202. 岩本智之(京大・原子炉): 道路環境アセスメントについて——藤田敏夫氏へのコメント——
- P203. 石崎健二(北大・工): レイノルズ方程式におけるレイノルズの条件について

- P204. *甲斐憲次・内野 修・田端 功(気研・衛星観測): 黄砂のライダー観測(2)——偏光解消度と光学的厚さ——
- P205. 柴田 隆・前田三男(九大・工), 宇都宮 彬(福岡県衛生公害センター), 溝口次夫(国立公害研): オゾンライダーとオゾンゾンデによるオゾン同時観測
- P206. *内野 修・田端 功・甲斐憲次(気研・衛星観測): ライダーによる雲の特性に関する測定(2)

第3会場 ポスター・セッション概要紹介

- P301. *城岡竜一・上田 博・藤井雅晴・菊地勝弘(北大・理): 写真観測からみた Snow Trail の形態
- P302. *石本敬志・竹内政夫(北海道開発局土木試験所), 内藤茂之・古澤春樹(三菱電機株): 画像処理による視程計測法の開発と観測値の評価
- P303. *横山辰夫・青柳二郎・鯉沼正一(気研・衛星観測): 層状性降水雲の立体構造(Ⅱ) セル状・バンド状構造の周辺における風の場の観測
- P304. 藤部文昭(気研・予報): 暖候期の日本における降水量と雷雨発現頻度の日変化
- P305. 道本光一郎(防大・地学): レーダーエコーによる発雷予測の可能性——冬季雷の事例研究(1986. 12. 28)——

P306. 井上豊志郎 (気研・台風): Split Window データ
による海面水温と雲形別雲量の解析

P307. *吉田作松・菊地原英和 (気象協会): わが国にお
ける斜面日射量の地域分布と季節変化

大会第1日 (10月14日) 16時15分~17時00分

(ポスター・セッション)

大会第2日 (10月15日) 9時00分~11時30分

第1会場 総観・中小規模現象

座長 八木正允

127. 八木勝昌 (大分地台), 足立 崇 (気大): 夏季の北西太平洋における上層寒冷低気圧に伴う下層擾乱の発生について
128. Wendell A. Nuss (東大・海洋研): Surface heating influences on baroclinic Cyclogenesis
129. 万納寺信崇 (気象庁・数値予報): 局地スペクトルモデルによるアメリカ大陸上の低気圧
130. 斎藤 定・田口 浩 (名大・水圏研): “条件付対称傾圧不安定群” がより大規模な場に及ぼす効果——準2次元数値実験——
131. *佐々木秀孝・出田 悟 (札幌管区): 北海道西岸における冬の不連続線の数値実験
132. *八木正允・木村富士男・高橋俊二 (気研・応用): 大気中のカルマン渦 (1): 解析・考察・2層流体数値実験
133. *高橋俊二・木村富士男・八木正允 (気研・応用): 大気中のカルマン渦 (2): 3次元の数値実験
134. 木村竜治 (東大・海洋研): 済州島風下に発生するカルマン渦の形成過程
135. 相原正彦・平沢正信 (気研・予報): 非線型臨界層による山岳強風

第2会場 接地境界層

座長 花房龍男

227. *堀 晃浩・伊藤昭三 (大阪府大・工): 3次元地形の乱流統計量に与える影響について
228. *北林興二・吉門 洋・近藤裕昭・横山長之 (公害資源研): 複雑地形上の気流の観測 (6)
229. *内藤玄一 (防災センター), 佐々木保徳・浅沼市男・宗山 敬 (海洋センター): 海水上の大気乱流の観測 (3)
230. 青田昌秋・白澤邦男 (北大・低温研): 北大流水領域気象海象観測システムについて
231. 児玉裕二・石川信敬 (北大・低温研): 融雪期に

おける雪表面境界層

232. *西村浩一・前野紀一 (北大・低温研): 雪粒子跳躍層の内部構造——吹雪の発生に関する風洞実験 (II)——
233. *岩谷祥美 (日大・生産工), 塚本 修・大滝英治 (岡山大・教養): 不安定成層時における海上風の乱れの空間構造
234. 近藤純正・*山崎 剛 (東北大・理): 潜熱と大気安定度を考慮した植物群落の熱収支モデル (2層モデル)
235. 光田 寧・文字信貴 (京大・防災研), 佐橋 謙・米谷俊彦・塚本 修・*大滝英治 (岡山大): 大気中の炭酸ガス濃度変動の国際比較観測 (2)
236. 赤井幸夫・西宮 昌 (電力中研): 気温鉛直分布のリモートセンシング手法——RASSの性能評価——

第3会場 放射・大気電気

座長 廣野幹彦

324. 廣野幹彦 (新潟大・工): 高圧下におけるCO₂の吸収特性
325. *深堀正志・牧野行雄・塩原匡貴 (気研), 田中正之 (東北大), 川口貞男・山内 恭 (極地研): 南極昭和基地における赤外分光法による微量成分観測 (序報)
326. 青木忠生・*柴田清孝 (気研): ランダムモデルにおける不均質大気透過率の厳密解と近似解
327. *柴田清孝・青木忠生 (気研): 長波放射のパラメタリゼーション (II)
328. 中川清隆 (上越教育大・自然): 都市キャニオン内の天空率, 遮蔽率の算定法
329. 小澤 博 (都立府中西高): 偏平な回転楕円体水滴によって形成される虹の形
330. 小山和子・坂詰久美子・関口まや・*北川信一郎 (東京家政大): 過去100年における本州の雷日数の経年変化とその地域的特徴

331. 道本光一郎(防大・地学): 雷電探知システムによる小松周辺の冬季雷の解析——落雷・航空機

被雷の事例(1986. 12. 28)——

大会第3日(10月16日) 9時00分~12時30分

第1会場 中小規模現象

座長 平 沢 正 信

136. 秋山孝子(気研・予報): 梅雨前線雲帯の変動スケール
137. 二宮洸三(気象庁・数値予報): 梅雨前線帯中間規模擾乱発達の大規模場の条件
138. 二宮洸三(気象庁・数値予報): Meso- α -scale 対流システムの meso- β 的特徴
139. 瀬上哲秀(気象庁・数値予報), 巽 保夫(札幌管区): 中間規模雲システムの発生と初期場の構造について
140. 吉住禎夫(気研・予報): 1982年8月2~3日の大雨域北側における気温降下
141. 武田喬男・近藤秀城(名大・水圏研): メソスケールの雲群の特徴
142. *赤枝健治・石原正仁・田畑 明・横山辰夫・榊原 均(気研): 沖縄における中規模対流性雲システムのドップラーレーダーによる観測
143. *石原正仁・田畑 明・赤枝健治・横山辰夫・榊原 均(気研): 沖縄地方における梅雨期の中規模雲システム
144. *光本茂記・高藪 縁・植田洋匡(国立公害研), 勝本清隆・原 孝夫・日隈克美(気象協会・福岡): ノンリフト・バルーンによる雲底高度付近での上昇・下降流の測定(速報)
145. 高橋 劭(九大・理): 貿易風帯の長続きするレインバンド
146. 平沢正信(気研・予報): 停滞前線に伴う対流性雲システムの2次元数値実験
147. 中村晃三(東大・海洋研): 強い下降流を伴う積乱雲の数値実験その1: 上層湿度の影響
148. 中村晃三(東大・海洋研): 混合層モデルを使った短時間降雪予測 その1: モデルの構成とテスト
149. *吉崎正憲(東大・海洋研), 小倉義光(イリノイ大): Big Thompson storm の2次元と3次元の数値実験

第2会場 局地循環

座長 水 間 満 郎

237. 中山 章・栗山陽一(防大): 薄い厚さの寒気に伴う Low Altitude Wind Shear
238. 渡辺 明(福島大・教育): 猪苗代湖北岸における局地循環の立体構造
239. 森 洋介(宮城教育大): 仙台平野における海風の特性
240. 一ノ瀬俊明(東大・工): 夏型気圧配置下における地上風系の日変化——大気汚染広域化現象予測へのアプローチ——
241. 水間満郎(京大・原子炉): スペクトル法による海陸風数値モデルの構築
242. 鈴木力英(筑波大・地球科学): 中部日本における静穏出現の季節性と地域性
243. 田中夕美子(北大・演習林): 谷の中の安定層の発達と局地風について
244. *桑形恒男・佐藤 威・近藤純正(東北大・理): 谷風(斜面上昇風)の厚さと風速に関する考察
245. 佐藤 威(東北大・理): 斜面上昇流の構造と特性について(2)
246. 近藤純正・*大草直子(東北大・理): 盆地の夜間冷却量のパラメータ化と大気放射の影響
247. 石川信敬・児玉裕二(北大・低温研): 南極斜面下降風帯における夏期の熱収支
248. 井上治郎(京大・防災研): カタバ風の季節変化

第3会場 大気化学

座長 太 田 幸 雄

332. *佐々木 徹・牧野行雄・旭 満(気研・物理), 広田道夫(高層气象台), 村松久史(京大・防災研): 露点ゾンデの水蒸気汚染の除去(I)
333. 村松久史(京大・防災研): 成層圏から対流圏へのオゾン流入の経年変化
334. 忠鉢 繁(気研・物理): 南極成層圏大気におけるオゾン混合比と温位の季節変化
335. *新谷光三(気象協会), 鶴田治雄(横浜市公害研), 溝口次夫(国立公害研), 小川利紘(東大・理): 低汚染地域におけるオゾン濃度と気象条件

336. *古橋規尊・村尾直人・太田幸雄(北大・工): 札幌における春季のオゾン濃度(Ⅱ)
337. 太田幸雄・村尾直人・*栗飯原範行・鈴木 篤(北大・工): 札幌における NO_2 , SO_2 , 及び NH_3 ガスの濃度分布の測定(Ⅱ)
338. 鶴田治雄(横浜市公害研): 日本でのメタン濃度の季節および経年変化
339. *松枝秀和・井上久幸・杉村行勇(気研・地球化学): 熱帯太平洋上における大気中メタン濃度の経度変化について
340. 井上久幸・松枝秀和・杉村行勇(気研・地球化学), 伏見克彦(気象庁・海洋): 1986/87エルニーニョ期間中の表面海水中の炭酸ガス分圧について
341. *越潮敏博・村尾直人・太田幸雄(北大・工): 土壌粒子と硝酸ガスとの反応
342. *内山政弘・水落元之・福山 力(国立公害研), 矢野勝俊(山形大・理), 太田幸雄(北大・工): 蔵王山の樹氷(雲粒)および降雪の化学組成
343. 太田幸雄・村尾直人(北大・工), *愛須一郎(日本電気株): 大気中の降下物質の測定(1)

大会第3日(10月16日)13時30分~17時00分

第1会場 熱帯気象・台風

座長 丸山 健人

150. 岩嶋樹也・Sanga-Ngoie Kazadi・西 憲敬・畑澤宏善(京大・理・気候): 低緯度東西・南北循環とその年々変動
151. 安成哲三(筑波大・地球科学): インドモンスーンの経年変動に伴うテレコネクション
152. Sanga-Ngoie Kazadi(京大・理・気候): On the annual and the interannual variabilities of tropical large-scale circulation
153. *宮崎保彦・田中康夫(気象庁・長期予報): 1月の日本の天候と熱帯の対流活動
154. *矢野順一・西 憲敬(京大・理): 赤道大気の時空間変動の階層性・自己相似性
155. 村上勝人(気研・台風): Station Data による季節内変動鉛直構造の解析
156. 中澤哲夫(気研・台風): 赤道域における Super Cluster の合成解析
157. 住 明正・*沼口 敦(東大・理): 水惑星モデルにおけるスーパークラスターの収支解析
158. 新田 勅(気研・台風): エルニーニョ発生期の大気・海洋変動
159. 森 一正(気研・予報): 「なつしま」の観測結果に見られる気圧と風との変動について
160. *森 一正・丸山健人(気研・予報): 「JENEX-87」観測期間前後の赤道太平洋域における対流圏の風の変動について
161. 邊田有理江(京大・防災研): 1980年9月・10月の台風の発生と流れの場について
162. 山岬正紀(気研・台風): 条件付不安定大気中で

の渦の形成と台風の発生の数値実験

163. 山岬正紀(気研・台風): 熱帯収束帯の雲群と熱帯低気圧の数値実験
164. 近藤洋輝・山岬正紀(気研・台風): 対流をパラメタライズしたモデルによる鉛直シアー流中の対流雲群と CISK の数値実験
165. 阿部成雄(防大): 台風の非対称性と移動

第2会場 気象力学・中層大気・惑星大気

座長 山 中 大 学

249. 斉藤隆幸(埼玉工大): プロッキング高低気圧の配置の水槽実験
250. 守田 治(九大・理): 回転流体中の傾圧波動のスペクトルについて
251. *宇加治一雄・玉木克美(福岡大・理): 回転水槽実験の数値シミュレーション
252. 高藪 出(気象庁・高層): 2次元傾圧場で発達する3つの型の擾乱
253. 向川 均(京大・理): 「準定常状態」の力学に関する基本的考察
254. 山中大(山口大・教育): 赤道上的熱源分布についての仮説と ENSO
255. 和方吉信(東海大・海洋): 大気海洋結合モデルの固有値問題について
256. *牛丸真司・田中 浩(名大・水圏研): MUレーダで観測された東西風転移高度の慣性波——ray tracing による波源の考察——
257. *大野裕一・廣田 勇(京大・理): MUレーダ観測によって得られた強い鉛直風変動の解析(2)
258. *村岡良和(兵庫医大), 杉山卓也(京大・理), 川平浩二(富山高専): 重力波の伝播と大気の安

定性の変化

259. 余田成男(京大・理)：成層圏突然昇温現象に関する「理論」の比較と検討
260. *余田成男(京大・理), J.R. Holton(ワシントン大)：赤道帯状平均流の準2年周期振動モデルに対する新しい視点
261. 松井孝典・石渡正樹・*阿部 豊(東大・理)：大気の進化
262. 阿部 豊(東大・理)：地球大気の組成について——地球材料物質への制約条件——
263. 松井孝典・*田近英一・阿部 豊(東大・理)：巨大衝突盆地の形成と火星の気候変動

第3会場 エアロゾル

座長 荒生公雄

344. *大和政彦・小野 晃(名大・水圏研)：沿岸海域におけるエアロゾル濃度の空間的構造
345. 石岡 太・李 東仁(北大・環境), 菊地勝弘・谷口 恭(北大・理)：係留気球による大気境界層内のエアロゾルの測定(Ⅱ)
346. *李 東仁(北大・環境), 谷口 恭・菊地勝弘(北大・理)：風向別に見た札幌市およびその上空におけるエアロゾルの化学成分の特徴(Ⅱ)
347. *谷口 恭・菊地勝弘(北大・理), 佐藤 昇(大阪府科学教育センター)：北極圏カナダにおけるエアロゾル濃度の変動とその元素成分について
348. 岩坂泰信・吉見健一・大和政彦(名大・水圏研)：CN 粒子数の変動と水蒸気量(航空機観測)
349. 岩坂泰信・林 政彦(名大・水圏研)：既存粒子の表面への硫酸蒸気の condensation：粒子の沈

降の影響

350. *岩坂泰信・小野 晃・今須良一・大和政彦・吉見健一・林 政彦(名大・水圏研), 荒生公雄(長崎大・教育)：春の黄砂粒子の分布：1987年の観測を基にして
351. *大和政彦・小野 晃(名大・水圏研)：トロポポーズフォールディングを通過して対流圏に輸送される成層圏粒子
352. *大塚宣子・秋吉英治・前田 聡・藤原玄夫・高橋正明(九大・理)：成層圏エアロゾルの季節変動について
353. 広野求和(九産大・教養)：火山爆発エアロゾルの上部対流圏加熱継続期間
354. *秋吉英治・高橋正明・藤原玄夫(九大・理)：南極エアロゾルの加熱効果とオゾンホール
355. 岩坂泰信(名大・水圏研), 森田恭弘(名大・空電研)：南極成層圏エアロゾル粒子の粒径分布
356. *臼井和也・安田 寛・星山満雄・西辻 昭(北大), 笹野泰弘(国立公害研)：二波長レーザーレーダーによるエアロゾル重量濃度空間分布の評価——原理とシミュレーション——
357. 笹野泰弘(国立公害研), *臼井和也(北大)：二波長レーザーレーダーによるエアロゾル重量濃度の評価——直接測定との比較——
358. *守屋 岳(気象協会・中央), 太田幸雄・村尾直人(北大・工)：組成分析に基づく大気エアロゾルの太陽放射吸収特性の評価(Ⅰ)
359. 太田幸雄・村尾直人・*目黒 享(北大・工)：土壌粒子の可視領域吸収係数の測定